教材研究ノート№2-A-15

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・「基準量のいくつ分」でかけ算の式が表されることを理解し，すべての段の九九を正確に覚えている。

○既習とつなぐ見方・考え方

・かけ算とたし算を組み合わせて答えを求める学習をしている。

○共同追究でのゆさぶり

・図の分け方に応じて式の形が決まってくることに目が向く子どもは少ない。

○ゆさぶりに対応する経験

・「かけられる数」と「かける数」を意識して，問題文に照らして式をよむ学習している。

**●●●●●●**

**●●●●●●**

**●●●●●●**

**●●●●●●**

**●●●●●●●●●**

**●●●●●●●●●**

**●●●●●●●●●**

**●●●●●●●●●**

**●●●●●●●●●**

≪学習問題≫

クッキーが右のようにならんでいます。

九九を使って全部の数を求めましょう。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

②見通し:これまで使ったアレイ図と違うので九九が使えない。

→アレイ図になるように分けたりつけたしたりすればよい。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②学習課題:九九が使えるように，図を分けたりつけたしたりして，クッキーの数の求め方を考えよう。

③個人追究:図の分け方をもとに式をつくり，説明する。

④共同追究前半（解法の発表，比較検討）

「どの求め方にも共通していることはなんだろう？」

→「九九が使えるように同じ数のまとまりに分けて，それぞれの数を求めてからたしたりひいたりしている。」

**●●●●●●**

**●●●●●●**

**●●●●●●**

**●●●●●●**

**●●● ●●●●●●**

**●●● ●●●●●●**

**●●● ●●●●●●**

**●●● ●●●●●●**

**●●● ●●●●●●**

④共同追究後半（思考を深める）

「式を見ただけで図の分け方がわかるかな？」

→「3つのかけ算だから図も3つに分けていると思う。」

「分けた数とかけ算の数は，同じになる。」

5×3＝15

4×6＝24

5×6＝30

15＋24＋30＝69

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・アレイ図が使えるように図を分けたりつけたしたりすることで，九九を使って全部の数を求めることができる。

・図の分け方と式の形は対応しているので，式を見ればどんな求め方をしたかわかる。

⑥定着･活用問題

クッキーが右のようにならんでいます。（図略）

(1）「4×4＝16　3×3＝12　16＋9＝25」という式で求めた人は，どのような考え方をしたでしょう。

(2）アと別の分け方で，九九を使って全部の数を求めましょう。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・「かけ算」の単元を通して，アレイ図をもとにしてかけ算の意味を確認したり，九九を自分で構成したりすることで，基準量を何にして考えたらよいかの見通しを持てるようにしたい。

・共同追究では，図と式を関連させて，どのように考えて求めたか，何を基準量としてとらえたかを表現したり，読み取ったりする双方向の学習を位置付けたい。

【板書計画】